



リハビリ便り 

第2回 ^て ^げ ^か 手外科・ハンドセラピーの紹介

● リハビリテーションセンター 作業療法士 濱野 靖子・久山 祐司

「^て ^げ ^か手外科」、皆さんは聞かれたことがあるでしょうか？ 少し馴染みの薄い言葉ではないかと思います。手外科とは文字通り肘から指先までの^て ^げ ^かけがや病気に対して、高い専門性と高度な技術をもった外科的な（手術）治療のことです。また、ハンドセラピー（肘から指先のリハビリ）とは、損傷によって障害された手の機能回復を目指すと共に、「生活する手」として能力の拡大を図ることで、ひとの「手」はきわめて繊細な運動器官であると同時に、知覚器官でもあり、ちょっとした障害でも日常生活を送る上では大きな苦痛となります。手は非常に複雑な構造をもっているため、手術やハンドセラピーに専門的な知識や技術が必要とされており、当院ではハンドセラピーを私たち作業療法士が担当しています。

骨折で最も多いのが手首の骨折（橈骨遠位端骨折）で、転倒した際に手をつくことで受傷します。また腱（指を曲げる筋肉の末端部分）損傷であるバネ指（指を握ると伸ばせなくなる）や腱断裂（包丁や機械に巻き込まれる）、神経損傷後の麻痺や感覚障害なども対象となります。成人のみならず症例数のあまり多くない子どもの肘や指の先天性疾患に対する手術・ハンドセラピーも実施しています。当院では手術前、もしくは手術後すぐからハンドセラピーを開始し、手の管理や合併症、後遺症の予防に努め早期の社会復帰を目指しています。



指の腱の縫合術後。指に付ける装具を作業療法士が作成し、手指の屈伸運動を行います。術後の腱の癒着を予防し、指関節の運動を回復させます。



子どもさんのリハビリ風景。肘関節の可動域訓練をしています。先天的な関節障害は、正常な成長を阻害し、運動制限や日常生活の障害となることがあります。成長に併せて長く経過をみる場合もあります。



ダンベルやグリップを使い、握力や手首の筋肉を鍛えます。また、指先の細かい動きを、さまざまな作業道具を用いながら練習しています。